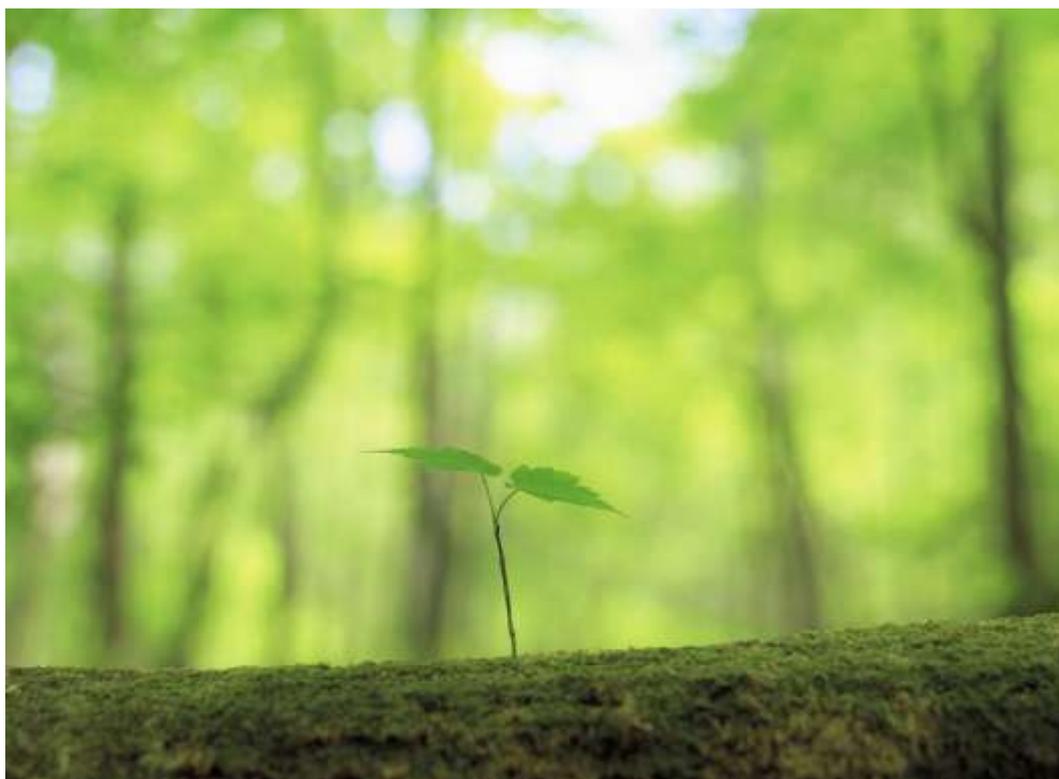


我が家（一人ひとり）の 復興計画づくりのすすめ

被災者の皆様のための ライフプラン策定マニュアル 「1 生活設計の考え方」編



岩 手 県
N P O 法人日本 F P 協会

目 次

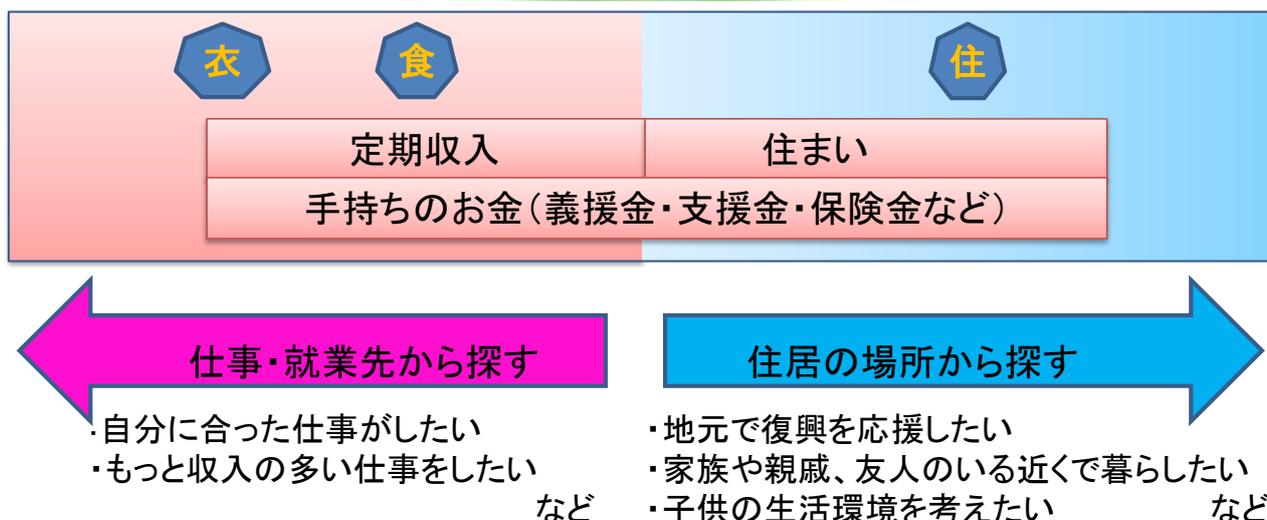
1	生活再建と生活基盤	3
2	収入、生活費の状況と手持ちのお金の増減	4
3	持家と賃貸住宅のメリット・デメリット	5
4	持家か賃貸住宅課の判断材料	6
5	「我が家の復興計画」ライフプラン・シミュレーションの作成	7

1 生活再建と生活基盤

生活再建を図るには、支援金や義援金など手持ちのお金を効果的に活用しながら、生活の基盤（経済的な基盤）である「定期収入」と「住まい」の確保を図るとともに、自分や家族の夢や希望（精神的な基盤）の実現に向けて歩いていくことが大切です。

「定期収入」と「住まい」の選択は相互に影響し、一方に重点を置けば、他方が思いどおりにならない場合もあります。住む場所は、そこを拠点として自分や家族が生活を営むわけですから、その生活が影響を受けるほか、生活を営む糧である仕事の種類（職業・職種）の選択や収入等も影響を受けます。

そのため、「仕事や就業先から住む場所を探す」か「住んでいるところで仕事を探す」かを、自分や家族の意向（「自分に合った仕事がしたい」「地元で復興を応援したい」など）のほか、自分の年齢や家族・家族構成の状況・変化、雇用状況、手持ちのお金や期待できる収入等総合的に見て判断することになります。



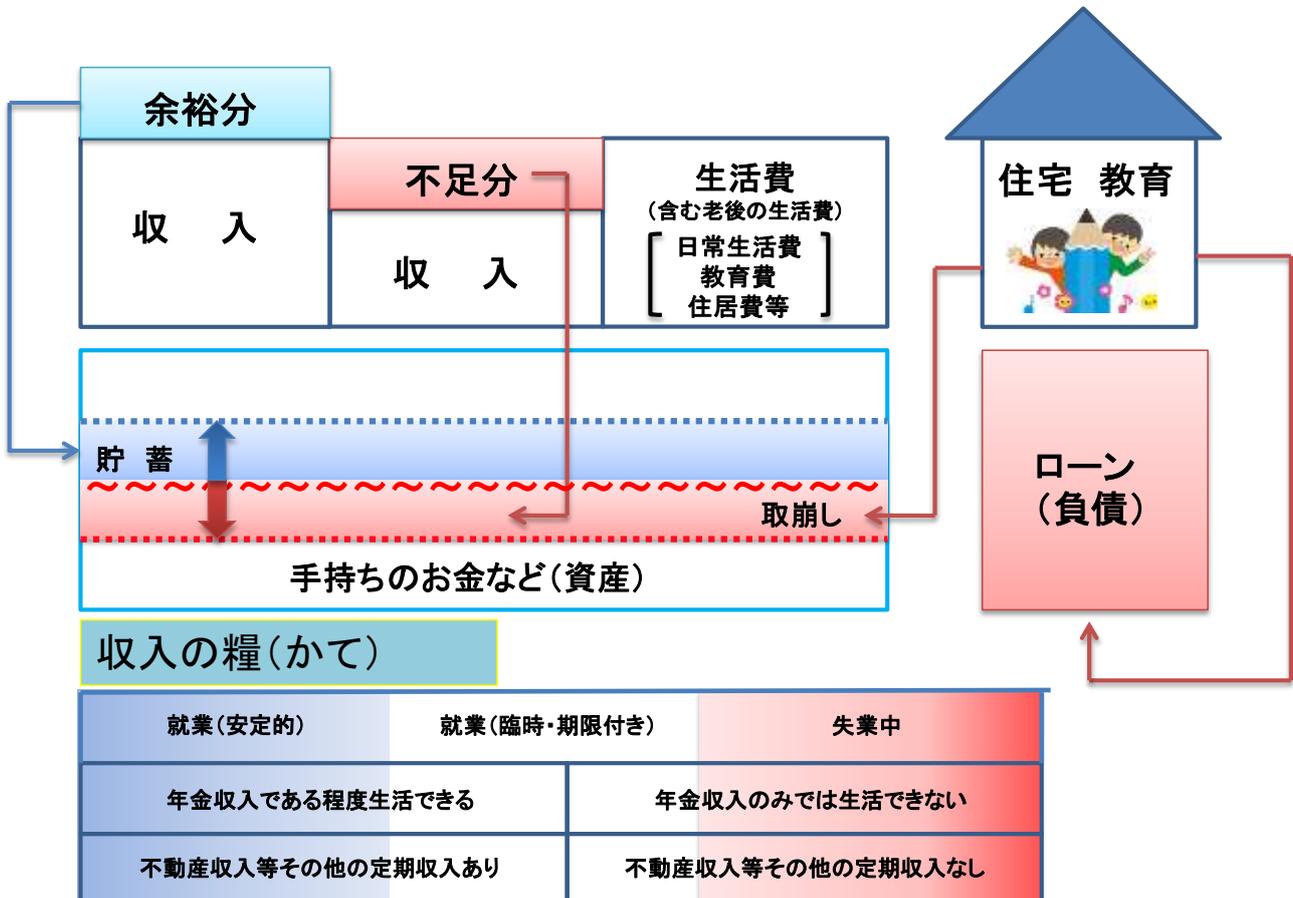
2 収入、生活費の状況と手持ちのお金の増減

収入が生活費より多ければ貯蓄に回り、少なければ手持ちのお金の取り崩しとなります。一時的な失業状態はやむをえませんが、できるだけ早めに就業できるのであればそれにこしたことはありません。

また、今の収入や近い将来見込める収入が生活費と見合っていれば、当面安心ですが、年金生活に移った場合、公的年金のみでは不足することが多いのも事実です。

この不足分を補うのが、子供の支援を当てにしなければ、それまでの蓄えである手持ちのお金なのです。このため、収入と生活費が年齢や家族構成の変化等により、どのように変わっていき、その結果である手持ちのお金（資産）やローン（負債）がどう変化するか確認することが、実情にあった対応をとる（事前準備する）には欠かせません。

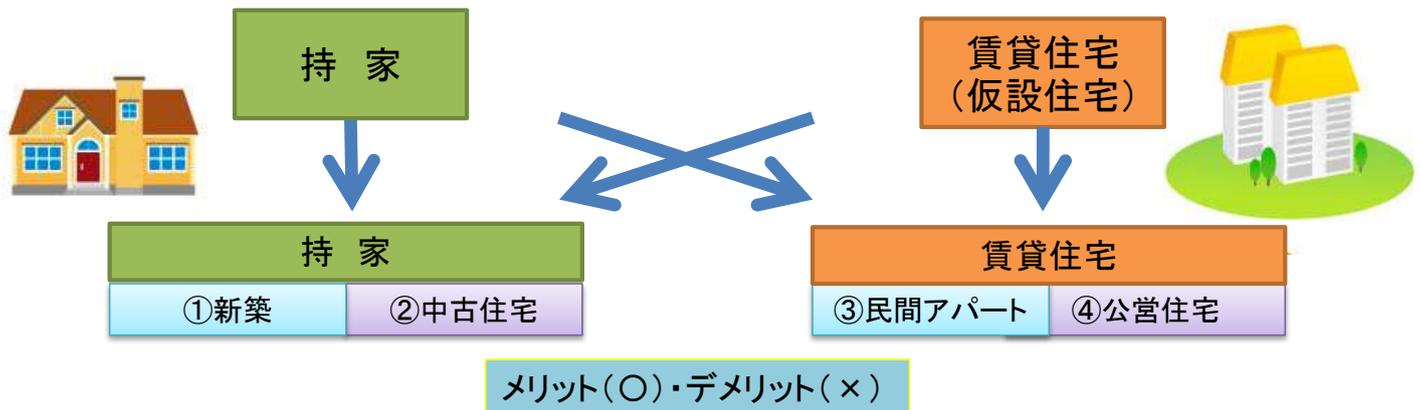
人生には、お金がかかる3つのことがあります。これは、「住宅」「教育」「老後」の各資金（人生の3大資金）をいい、どれもかなりの費用がかかります。一時期の費用の負担を平準化するため、住宅資金や教育資金は、ローンを利用することも多いですが、老後の資金はローンで賄うわけにはいきません。住宅を確保する必要な方や、これから子供の教育費（特に大学進学費用）がかさむ方は、公的支援も利用し、通常的生活資金を勘案しながら対応していくことが必要です。



3 持家と賃貸住宅のメリット・デメリット

住宅は、持ち家にするか賃貸住宅にするかの選択やその費用の多寡、どこに住むかによって、生活設計が大きく変化することから、生活再建を考えるうえで重要な項目です。誰しも、借りものでなく自分の家に住みたいと思うのは当然ですが、自分の収入や手持ちのお金を最大限有効に使うことを考えると、持ち家にこだわらず賃貸住宅を選択する人もいます。

それぞれ、メリット・デメリットがあることから、住宅に掛かる費用と老後の生活費のお金の面や、将来の生活予測（世帯構成の変化、介護の可能性、インフレの可能性）を含めて考えることが必要です。

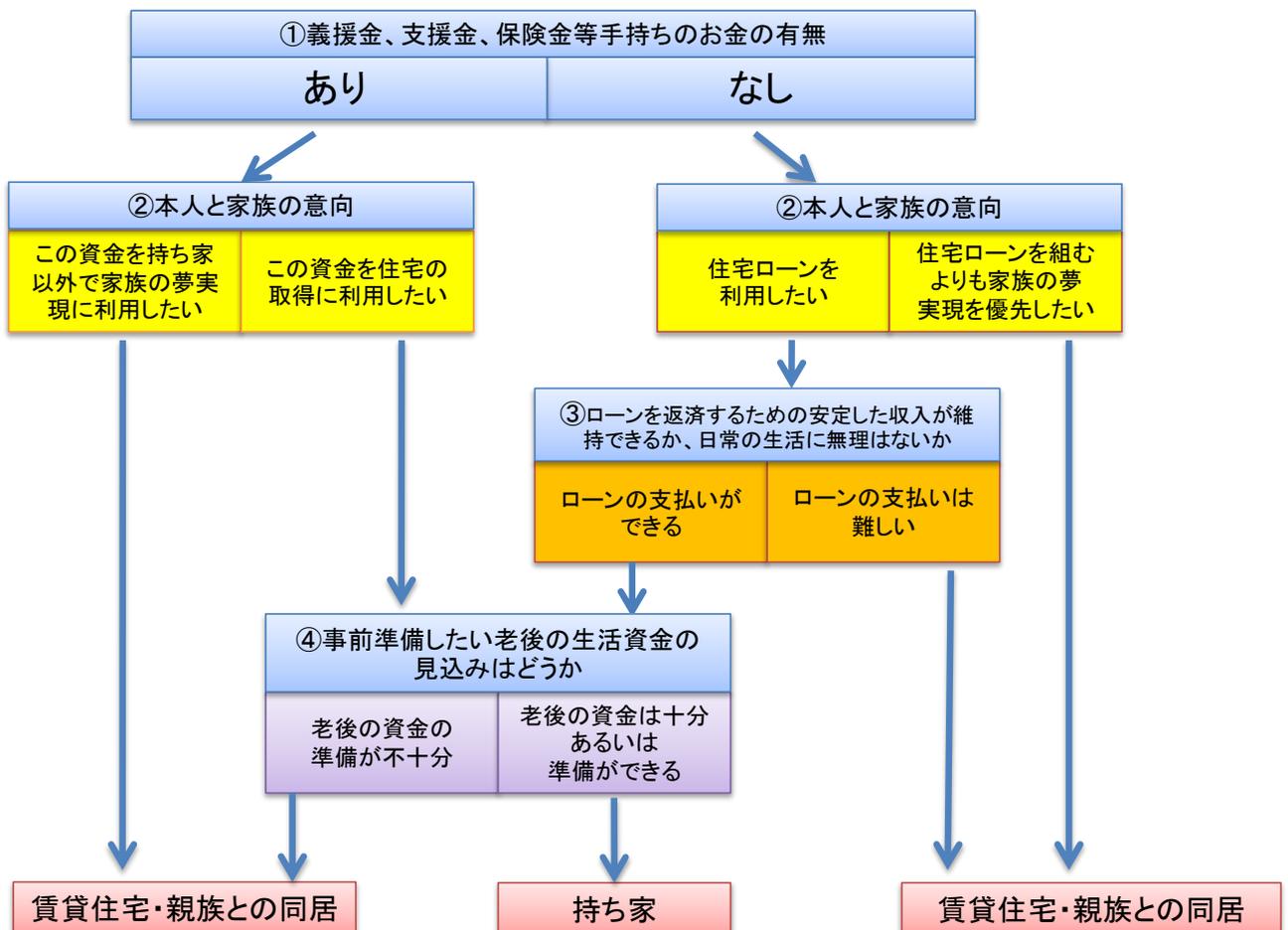


	持 家	賃 貸 住 宅
所有	○自分のものであり、所有している安心感がある。○自分の好みの住まいが手に入る。×住み替えの自由が制限される。	×家賃や更新料等を払い続けても、自分のものにならない。△賃貸物件の中で、自分の好みの住まいを捜す必要がある。○住み替えの自由が手に入る。(×引っ越し費用等が掛かる)
老後1	○収入が少なくなる老後は、ローンを完済すれば、賃貸住宅に住んでいる人より家賃の分だけ生活費が少なくてよい。(×それまで貯蓄が増加しない可能性が高い)	×老後も家賃を支払わなくては行けないので、家賃の分だけ生活費が多く掛かる。(○それまで貯蓄が増加する可能性が高い)
老後2	△老人ホームや介護施設等に入居する場合は、施設にお金を払う必要がある。また、家が不要になる。	△老人ホームや介護施設等に入居する場合は、施設にお金を払う必要がある。また、現在住んでいる賃貸住宅の家賃の支払いは不要になる。
税金 ローン	×固定資産税等の税金が掛かる。ローンがある場合は、金利を払わなければならない。	○固定資産税等の負担は貸主となる。ローンの支払いがない分、別な目的にお金を使うことができる。
資産	×古くなれば、補修等が必要になる。また、建物の価値が下がる。土地の値段も、現状では低下傾向である。○最終的には資産になる。○大きなインフレが起きた場合、住居としての資産を確保できる。	△補修等は貸主が行う。古くなって価値が下がっても、所有していないので直接関係ない。×大きなインフレが起きた場合、家賃が大幅に値上げになる。
就業	×住む場所が固定されることになり、就業場所が通勤圏外になるばあい、単身か家を空けることになる。	○就業場所が変われば、自由に転居できる。

4 持家か賃貸住宅かの判断材料

持家と賃貸住宅のメリット・デメリットを踏まえたうえで、①義援金、支援金、保険金等手持ちの資金の有無、②本人と家族の意向、③ローンを返済するための安定した収入が維持できるか、日常生活に無理はないか、④事前準備したい老後の生活資金の見込みはどうか、を検討していく必要があります。

また、自分では住宅を取得せず、親や子供夫婦が取得した住宅に同居することも選択肢として検討してください。



5 「我が家の復興計画」ライフプラン・シミュレーションの作成

ー シミュレーションを作成して分かること（有要性） ー

(1) より良い生活を目指して

ライフプラン・シミュレーションは、これからの自分と家族の人生設計を踏まえて作成します。そのため、現時点で生活していくための収支（お金の過不足）のみだけではなく、20年程度の期間、あるいは作成される人によっては老後の生活も踏まえて、長期的な視点で人生を過ごすための収支を見て調整（収入を増やす、節約する、貯蓄をする、ローンを借りる、住まいを持家か賃貸か考える、など）し、より良い生活を目指して行くものです。

(2) シミュレーションは何を示すのか

長期的な視点で見ると、経済環境、就業状況、家族構成、自身も含め家族の健康状況（介護の必要性など）も変化することから、収入や支出も変化して行くことになります。一方、シミュレーションを作成するに当たって入力する数値は、現時点で確定しているもの、また、将来見込まれる、あるいはこうありたいという希望の数値を使用します。このため、作成されたシミュレーションは、一定の条件で「こうなるだろう」という目安の数字を示すことになります。

(3) シミュレーションの効果

目安といっても、将来の収支等の見込みを具体的な数字で見ると、今まで漠然と不安に思っていたことがハッキリして、具体的な行動に移し易くなります。また、「今ある手持ちの貯蓄で、老後生活が無理なく過ごせるか不安」であった相談者が、このシミュレーションを体験し、「不安が和らいだ」との感想も聞かれます。

(4) 生活再建への第一歩

住む場所や仕事が決まっていない方、老後の生活が心配な方、住まいを持ち家にするか賃貸（災害復興公営住宅など）にするか迷っている方、子供の教育資金に不安がある方など、ぜひ、このシミュレーションを作成し、いっしょに生活再建への一歩を踏み出しましょう。

◆ ライフプラン・シミュレーションをご自身で作成したい方は、下記マニュアルをご参照ください。

被災者の皆様のためのライフプラン策定マニュアル

「2 ライフプラン・シミュレーション」編

【マニュアル・シートのダウンロードについて】

このマニュアルとライフプラン・シミュレーションに使用するシートは、岩手県庁のホームページからダウンロードすることができます。

我が家の復興計画

サイト内検索

クリック

